

一SCS評価制度 ★4 対応のITインフラのバックアップー (サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度)

目標復旧時点の確保(RPO)

- ランサムウェアなどによるデータ破損、暗号化に備えて、指定した目標復旧時点まで確実に復元できるバックアップの維持と実現。

遠隔地や独立した保存先へのバックアップファイル保管

- ランサムウェアや災害などにより、バックアップファイルが使用不能とならないために、取り外し可能デバイス、分離されたネットワーク相当のストレージ、イミュータブル機能を実装したストレージ(遠隔地含む)への、バックアップファイルの保管。

復元プロセスの確認と実施

- ★3については復元作業手順の確認及び手順書作成と、実際の復元テストによる復元実績。

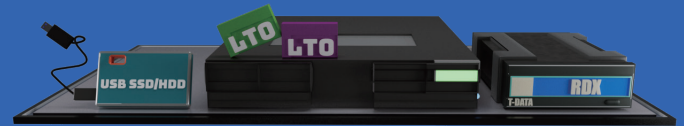
SCS評価制度 ★4の達成とは？

- 隔離保存

パターン1:

USB機器、RDX、LTOなどの取り外し可能デバイスへバックアップファイルを保存し、バックアップ対象システムなどから常に取り外して保管する。

- ・メリット＝USB機器は安価で導入が容易。物理的に取り外すため、理解しやすい運用が可能。
- ・デメリット＝取り外し可能デバイスの装着/取り外し作業が必要。運用が煩雑になる可能性。



パターン2:

WindowsベースのNASへActipty ImageServerを導入し、NASとバックアップ対象を専用LANで接続。専用LANはQUICプロトコルのみを通信可能とすることで、業務ネットワークのTCP/IPプロトコルによる接続は不可。

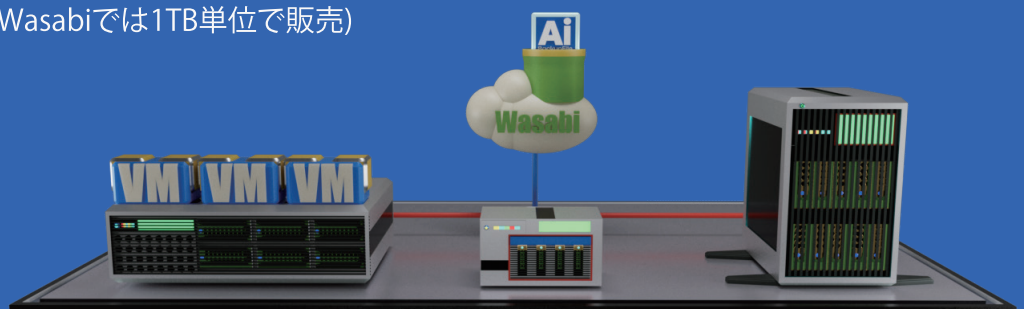
- ・メリット＝WindowsベースのNASをすでに所有している場合、必要なことはActipty ImageServerの導入のみ。(Actipty ImageServerはActiveImage Protectorユーザーは無償利用可能)
- ・デメリット＝社内ネットワーク構成の設計が必要。サイバー攻撃がQUICプロトコルに対応している場合、効果はない。



パターン3:

クラウドストレージ Wasabiを2次保存に利用。保存先バケットはオブジェクトロック/バージョニングを設定することで、イミュータブルストレージとして利用。

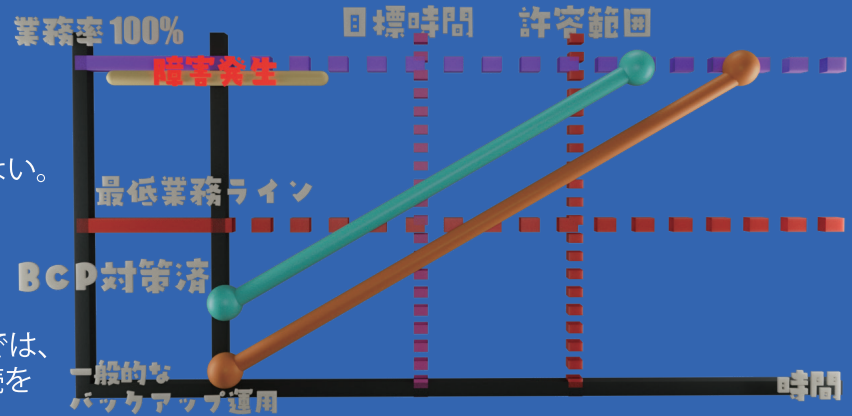
- ・メリット＝Actipty ImageReplicatorを使用して、1次保存先とWasabiを自動的に連携。(Actipty ImageReplicatorはActiveImage Protectorユーザーは無償利用可能)
- ・デメリット＝最小25TB/年のサブスクリプションのため、データ量が少ない場合の敷居の高さ。(Actipty Wasabiでは1TB単位で販売)



一般的なバックアップとBCP対策済バックアップの違い

一般的なバックアップとBCP対策のバックアップ運用は異なります。従来のバックアップからの復旧の問題として、以下の懸念があります。

- ・実際にリカバリーしたことがなく、戻せるかわからない。
- ・復旧に要する時間が不明。
- ・元の環境へ復旧だけでは、ランサムウェア感染時のビジネス継続ができない。



SCS★4対応のバックアップActiveImage Protectorでは、事前に復旧シナリオを用意することで、ビジネス継続を実現します。

SCS★4達成のための必要事項

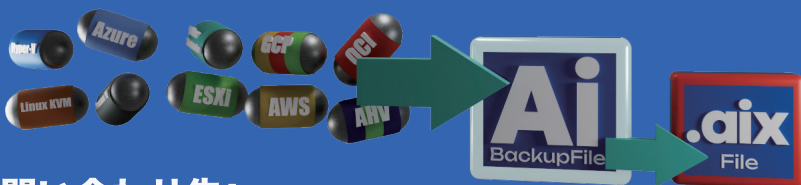
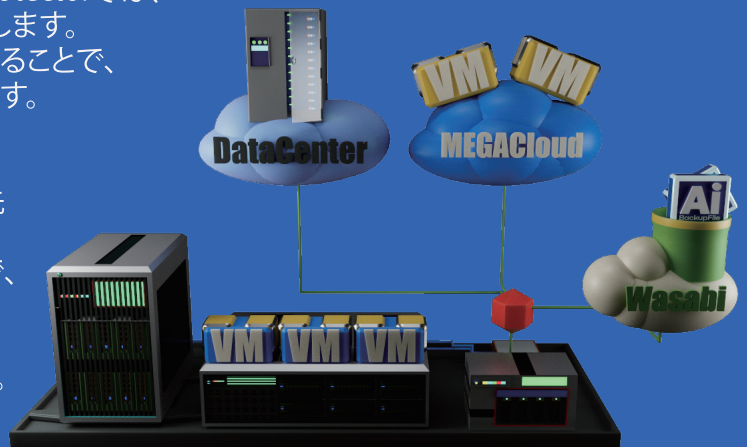
- ・隔離保管
(イミュータブルストレージ、論理/物理的隔離、ネットワーク分離先へのバックアップファイル保存)
- ・復元テストの定期実施とRTO達成
(バックアップのエラー確認だけでなく、年1回以上の実施復元テストも必要。)
- ・設定されたRTO内での復旧証明
(障害発生時から定められた最低限の業務開始までに許容される時間(RTO)をあらかじめ設定し、テスト時に当該時間内で復元が完了できるか、タイムログの記録、保管をする必要があります。)

アクティブファイのSCS★4対応バックアップソリューション

アクティブファイのバックアップソリューションActiveImage Protectorでは、BCPを考えたSCS★4対応のバックアップ運用を実現可能とします。隔離保管に関しては、クラウドストレージのWasabiを使用することで、堅牢な保存先として、隔離保管の要件を満たすことができます。

ランサムウェア感染などのサイバー攻撃による障害発生時、元の環境は感染経路の検証などのため、最低3ヶ月は復旧先として利用できません。

そこで、復旧先に第2のインフラをあらかじめ選定することで、障害発生時のスムーズな復旧作業を実現します。また、敷居の高い異なる環境への復旧作業について、アクティブファイでは仮想化パッケージ機能を用意しています。そのため、簡単な操作で既存のバックアップファイルを移行先インフラに適合させ、復元可能となります。また、アクティブファイでは異機種復元もサポートしています。



お問い合わせ先:

Actiphy

株式会社 アクティブファイ
TEL:03-5256-0877

Mail:sales@actiphy.com Web:https://www.actiphy.com

ドコデモチャントモデル
DOKODEMO CHANTO MODOSERU
SOLUTION
ActiveImageTM
PROTECTOR

Actiphy Support

